



だより



R7.10.28 Vol.25

良い方向

夏休みにプールの命札についてのテレビ取材がありました。今度、NHKBSでハートみかんのことが取材されるそうです。先日はアメリカの方からドキュメンタリー映画で愛のみかん運動を紹介したいとの依頼がありました。真穴や小学校のいいところを紹介してもらうことはとてもありがたいことです。

偶然が重なっただけなのですが、何かいろいろなことが良い方向に動いている結果の一つのような気がしています。子供、教師、保護者、地域という歯車がしっかり噛み合っている。そんな感じがします。教師が関わるのはもちろんですが、保護者、地域の方々も一生懸命、子供たちに関わっていただいているからこそその良い方向なんだろうなと感じています。

蟬

これまでも蟬については、いろいろな角度から投げかけていますが…。孫が手に握めるものは何でも口に入れる時期です。先日、つまむことのできた小さな虫も食べようとしていました。思わず「だめよ。」とやめさせましたが、何にも言わなければ食べてたかも。(爆笑) そうやって、していいこと、しないほうがいいことを覚えていくのでしょうか。別に毒のある虫でなければ食べても問題はないのですが「虫！どんどん食べていいよ！」とはあまり言わないですよね？そのあたり、人間が社会的生物といわれる理由の一つでしょうか。社会的に好ましくないことを教えていくのが蟬なんでしょうね。が、その社会がどんどん変わっていますから、何が正しいのかは、もはや分かりません。親として教師として自分の考えを伝えることが大事かと。「虫はあんまり食べない方がいい！」これは多分大丈夫だと思います。…(笑)

四方山話真穴 ver2. 其の二十五(やってみる！)

先日、5.6年生が総合的な学習で取り組んでいる『みかん講座』の学習の一環で同志会の3人の方に来校いただきました。これまではみかんの作り方についての学習がメインだったのですが、今回はそのみかん作りに取り組んでいる人たちの思いやその人生についても深掘りしていきたいというねらいの下での学習でした。

自分の親はみかん農家を継がなかったが、祖父の畑を終わらせたくないとの思いで就農した矢野さん。別の企業で10年近く働いていたが、みかん農家を続けていこうと決心した阿部さん。そして沖縄で生まれ仙台で育った加屋本さん。それぞれの方の話の中にそれぞれの人生や思いが感じられ、ちょっと写真撮影のつもりで行っていた私までつい最後まで聞き入ってしまいました。

その中で、加屋本さんからこんな話がありました。「やりたい！と思うことにどんどん挑戦してほしい。僕は自分がやりたいと思うことに挑戦し、その夢のために働いてきた。そしてその結果、ここ真穴にたどり着き、ここでこれからずっと生活していくと決めた。」詳細は割愛しますが、様々な仕事をしながら、夢(自分のやりたいこと)に向かって歩んできた人生のように感じました。

私は日頃、子供たちに「できる、できないではないよ やるか、やらないかだよ」と言っています。それを体現している人がこんな近くにいたんだと何か嬉しさのようなものも感じました。自分自身、これからもチャレンジしていきたいと思いましたし、子供たちにも「まずやってみる！」そういう気持ちを持ってほしいと改めて思いました。

私の親業はもう終わっていますが、子供が何かをやりたいと言ってきたとき、「やってみろ！」と言える大人でありたいと思います。(つい心配したり、リスクを先に考えたりで、なかなか言えないんですよね…)

----- 切り取り線 -----